

1【学校経営の理念】 ●教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」 ●校 訓「貫徹 慎独 創造」 ●校 是「和」			2【本年度の教育の重点課題】 1)自立して未来に挑戦する態度の育成 ○校訓を活かした教育活動の推進 ・校訓の理念を互いに共有する取組の実践 （「貫徹坂」・「慎独の道」・「創造の庭」で心を育む取組等） ○「当たり前」のことが当たり前前にできる生徒の育成を図る。 ・基本的な礼節、全力清掃、時間励行等 ○主体的活動と「自己教育力」を促し、自立心を高める。 ・生徒会活動、学年・学級活動、部活動における主体的活動、自治的活動の推進 2)「生きる力」を育む教育の推進 ○「確かな学力」の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」となる授業の創造 ・情報活用能力の育成、ICTを活用した学習指導の充実 ・授業規律（返事、ハキハキとした発言等）の徹底 ○「豊かな心」の育成 ・心に響く道徳科での学び、命の尊厳や人権尊重の精神、規範意識を高める教育の推進 ・兵庫の防災教育、国際理解教育、伝統・文化活動、福祉活動の充実 ・やぶふるさとキャリア教育、兵庫型体験教育の充実 ○健やかな体の育成 ・体育科授業や部活動を中心とした体力・運動能力の向上 ・保健指導・性教育、新型コロナウイルス感染症対応の充実 ・栄養教諭や家庭と連携した食育の推進 ○特別支援教育の充実 ・特別支援学級、通級指導の充実 ○小中一貫教育の推進 ・9年間の学びの連続性を意識した教育の推進 3)子どもたちの学びを支える環境の充実 ○学校の組織力の強化と生徒指導の充実 ・生徒会や学級での人間的ふれあいによる指導 ・風通しの良い職場環境づくり、共通理解・共通実践の徹底 ・いじめ、問題行動、不登校などの未然防止、早期発見、対応 ・ネットメディア利用についてのルール作りと指導の徹底 ・関係機関との連携の強化（教職員、SC、SSW、保護者、地域も含めて） ○家庭・地域との連携 ・学校運営協議会を核にした地域人材の活用と地域活動（クリーン作戦・防災避難訓練等）へ積極的参加 ○教職員の資質の向上 ・「チーム八鹿青溪」で同僚と共同、認め合う職場づくり ・教育公務員としての自覚と倫理観の保持、「No体罰」等を用いた研修の充実 ・勤務時間の適正化、会議時間の短縮、定時退勤日の徹底			
＜めざす学校像＞ ○学ぶ楽しさを感じる学校 ・学習環境の整備 ・授業規律の確立 ・小中一貫教育の推進 ○やる気と活気にあふれる学校 ・自尊心、自己有用感の育成 ・多様な学びの実施 ・個に応じた指導の充実 ○信頼され、安心・安全な学校 ・危機管理体制の充実 ・保護者、地域との連携の強化 ・相談体制の充実 （生徒・保護者・学校）		＜めざす生徒像＞ ○「貫徹」 困難に負けず粘り強くやり抜く生徒 ・活力ある行動力の育成 ・健やかな身体づくり ・地域貢献の実践 ○「慎独」 こころ豊かで思いやりのある生徒 ・人権尊重と慎独の精神の育成 ・道徳の実践力の習得 ・郷土愛の育成 ○「創造」 自ら学び個性を伸ばす生徒 ・主体的な学びと確かな学力の向上 ・豊かな表現力の育成 ・地域文化の学びと継承	＜めざす教職員像＞ ○信頼される教職員 ・高い使命感、倫理観、授業力 ・誠実かつ迅速な行動 ・生徒への共感的理解 ○教育愛に燃える教職員 ・学び続ける教職員 ・高めあい協働する教職員 ・師弟同行：生徒と向き合い、生徒と共に汗を流し歩む教職員 ○研修に励む教師 ・教えるプロとしての資質能力と指導力を高める教職員	＜各項目評価について＞ A・・・自己評価において達成率が75％以上 B・・・自己評価において達成率が60％以上、75％未満 C・・・自己評価において達成率が60％未満		＜学校の取組状況及び改善の方策等について＞ ○・・・成果 ▲・・・課題、改善点 ※・・・改善の方策等

		主な評価項目・取組内容	各項評価 A・B・C	達成状況	学校の取組状況及び改善の方策等	学校関係者評価
教育目標・開かれた学校・職場づくり等	1	学校教育目標である「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」は達成されていると思いますか。	A	A	○学校教育目標は八鹿青溪校区の小中一貫教育の施策として、全小中学校で同じ目標を掲げている。そのため、小中一貫教育も5年目を迎え、指導に一貫性が生まれ、成果が見られる。 ○校訓の理念が学習や清掃時の生徒の様子に感じられるようになった。 ○校訓は生徒にも教職員にもよく浸透しており意識も高い。校地内の生徒がよく活動する場所を「貫徹坂」「慎独の道」「創造の庭」と命名し、今年度はさらに場所ごとに校訓の意味を記した看板を設置した。 ○朝読書の時間を「慎独タイム」、清掃の時間を「貫徹タイム」として学校全体の教育活動で意識を高めている。 ○コロナ禍で難しかったが、HP、通信、オープンスクール等により「開かれた学校づくり」は概ね進んでいる。小中一貫教育よりは年3回発行し全戸配布を継続している。 ○SSWとSCを交えて定期的に毎週1回の打ち合わせの時間を持ち、連携を図っている。不登校気味の生徒の登校に繋がったり、家庭環境の改善も見られた。 ○学校運営協議会を組織し2年目となる。コミュニティスクールとしてスタートできている。 ○一枚岩体制を強固にするために教職員間の情報の共有（報連相）を工夫して行っている。 ○若手教職員が一人一役、重要な校務分掌を分担することにより、若手教職員が意見を出しやすい環境ができつつある。 ○兵庫県の気象災害モデル校として、防災教育を核に指導力向上に努める組織づくりを推進した。 ○全教職員が「チーム八鹿青溪」を合い言葉として、それぞれの職務を主体的にこなしている。 ○部活動指導員（1名）を採用し、顧問の指導の軽減化を図ることができた。 ▲「いきいき運動部活動」の推進や定時退勤日の完全実施を核に、勤務時間の適正化を進めているが、まだまだ多忙感をぬぐえない。業務を改善・効率化する作業や提案が必要である。 ▲コミュニティスクールの充実と地域・外部人材の有効な活用に課題がある。 ▲ICT機器活用能力を高め、全ての教育活動に有効な手段とする。 ※HPをより良いものにするなどして発信力を高める。また、その有効活用をめざす。 ※コミュニティスクール3年目として、地域人材を活用して何か具体的な取組を考える。 ※年数の浅い教職員が年々増えてきた。学年組織で支え合う体制をより一層、整えていくことで、生徒や保護者に信頼される学級経営が推進できる。 ※教育方針を一層明確化し、「チーム八鹿青溪」の体制強化のもと、地域や保護者の協力を得ながら学校運営を推進していく。 ※勤務時間の適正化は、さらに業務改善を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保していく。	【学校教育目標】 ・教育目標は各会議などよく発信され、浸透されている。ただ、保護者の関心が薄い。 ・ふるさとを愛するのための取組も深めていきたい。学校での取組の様子も知りたい。ふるさとをしっかりと見つけ、未来へ向かって進んでほしい。 ・地域では子どもとふれあう機会が少ないが、朝の登校時の挨拶はとてもし儀正しい。 ・下足箱のくつの整頓がすばらしく、小学生にも見せてあげたい、学んでほしい姿勢である。
	2	校訓である「貫徹 慎独 創造」の理念は学校教育に生かされ、達成されていると思いますか。	A	A		
	3	「学校教育目標」と「校訓」は保護者や生徒に浸透し、願いが共有されていると思いますか。	B	B		
	4	通信の発行やHPによる情報発信、オープンスクール・授業参観等の開催により、「開かれた学校づくり」が推進されていると思いますか。	A	A		
	5	SSWやSC、保護者・地域等との堅固な協働体制のもと、「チーム八鹿青溪」として組織的に学校運営が行われていると思いますか。	A	A		
	6	コミュニティスクールとして、地域の核となる学校づくりが進められていると思いますか。	B	B		
	7	風通しの良い、ハラスメントのない職場づくりが推進されていると思いますか。	A	A		
	8	「勤務時間の適正化」によりワークライフバランスが保たれ、生徒と関わる時間の確保や自分自身の充実が図られていると思いますか。	C	C		
	9	学校行事は生徒の主体性を培う内容・方法で行われていると思いますか。	B	B		
教科等指導	10	「確かな学力」の定着を図る教育活動が推進されていると思いますか。	B	B	○小中一貫教育で学年に応じた授業規律を見直しを図った。、各クラス共に落ち着いた授業ができ、課題に対して確実に取り組む生徒が育っている。 ○小中一貫教育「まなび部会」の主導で、「自主学習」の取組を進めている。この取組が定着し成果を上げている。 ○授業時数の確保が心配されたが、夏休みの短縮や学校行事の縮小で確保することができた。 ○数学で行っている習熟の程度に応じた指導は効果的である。また、新学習システムを運用した英語をはじめ、同室複数指導も効果的であり、生徒からの評価も高い。 ○タブレットでの学習アプリ活用を推進など、新たな手法で家庭学習の習慣づくりを進め、基礎・基本の定着を促している。 ○全職員がICTの利活用を修得し、休校時や個別の欠席者にリモート授業を実施することができた。 ○食育の取組は掲示物など工夫しており、生徒も興味を示しておりとても良い。 ○コロナ禍が続き感染症予防に対する意識は高い。健康に対する生徒の意識は高く維持されている。 ▲新学習指導要領で求められている「主体的・対話的」な学びのための授業改善が必要。 ▲生徒用タブレットの導入を契機に個を伸ばす指導を進めているが、使用方法などに改善の余地がある。目的外使用や破損などがあった。 ▲保護者アンケートでは、昨年同様に個への配慮、きめ細やかな指導への期待が大きき。 ▲基礎学力及び学習習慣の定着において個人差が大きき。 ※「基礎学力の定着」や「教えて考える授業」といった、この数年間学校全体で取り組んできた原点に立ち戻り、授業研究を実施する。 ※タブレットでの学習も取り入れながら、自学自習の方策を考える。 ※今後も授業の開始に「本時の学習目標、学習の流れ」をしっかりと示すなど、生徒の学びを支援する活動を充実させる。 ※新学習指導要領が求めている「主体的・対話的な学び」の実践をめざし、生徒が活動する場面をできるだけ多くする。 ※個への対応を充実するため、少人数授業、同室複数授業を有効活用する。 ※「慎独タイム」の読書活動の充実を図り、その方策を考えて実践する。	【学力向上・教科指導】 ・生徒一人一人のつまづきや個別の学力差への対応が課題である。 ・授業を参観している限りでは、教師と生徒が一体となり授業に取り組んでおり、すばらしいと感じる。 ・コロナウイルス感染症のために学校が休校になる中、生徒はタブレットを持ち帰り、効果的に活用して家庭学習に取り組んでいる。 ・英語学習の取組は充実しているが、学習についていけない子どもがいなか、十分な配慮が必要である。 ・小学校でも、オープンスクールでは子ども達がとても楽しく活動しており、生き生きと学んでいる。このまま中学校でも頑張ってもらいたいと期待する。中学校では色々な先生の指導が入るのが良いことである。 ・教科指導について、保護者アンケートを見ると「学力を伸ばすためにきめ細やかな授業をしているか」という項目について厳しく評価されている。学校の大きな課題だと認識して、より良い授業づくりに努めていただきたい。 ・生徒は意欲的に楽しく取り組んでいる。 ・複数指導での授業、教職員同士で授業参観等を行うなど、お互いに助言できる体制づくりをさらに進めてほしい。 ※分かりやすい授業に取り組んでいると感じるが、理解しにくい生徒や配慮が必要な生徒に対しては個別指導をお願いしたい。 ※同室での複数教員による学習指導や少人数指導について、保護者アンケートの結果が気になるが、1人での指導とは異なる緊張感と安心感のあるきめ細かな指導につながっていると思う。
	11	授業時数の確保が図られ、教育課程が適正に管理されていると思いますか。	B	B		
	12	発達段階、教科の特性に応じた学習規律が確立されていると思いますか。	A	A		
	13	生徒の学ぶ意欲・関心（主体性）は高まっていると思いますか。	B	B		
	14	TT（同室複数）指導、少人数指導の運用は適正・効果的だと思いますか。	A	A		
	15	基礎・基本の定着は図られていると思いますか。	A	A		
	16	個を伸ばす指導や個への配慮に努めていると思いますか。	B	B		
	17	新学習指導要領の移行措置に適切に対応するとともに、「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善に努めていると思いますか。	A	A		
	18	生徒は総合的な学習の時間に意欲的・主体的に取り組んでいると思いますか。	A	A		
小中一貫教育	19	食育計画に基づき、組織的・計画的に食育指導が行われていると思いますか。	A	A		
	20	小中一貫教育のねらいである「中一ギャップの解消」「学力向上」「地域の活性化」に沿った取組が行われていると思いますか。	A	A	○「中一ギャップの解消」は、かなりの成果が見られる。スムーズに中学校生活への移行ができている。 ○小中一貫教育の導入から5年が経過し、八鹿青溪校区のスタイルが確立した。 ○3回の6年生登校は、小学生にとっても中学生にとっても有意義な機会となっている。 ○冬休みに自己有用感を高める意図で行った「お手伝い大作戦」が定着した。家庭からの理解、協力も得ることができている。 ▲組織を見直し、全体的に小中一貫教育に対する教職員の意識を高めていく必要がある。 ▲教育目標については、さらに認識を深め、目標のもとで、どんな児童生徒を育てていくのかを、小・中学校で共通理解していく必要がある。 ▲「学力向上」については結果が早急には見えないものであるが、言語活動等の系統的な指導内容の整理や「自主学習」の取組などの方策をさらに具体化する必要がある。 ※教育目標を各学校の実態に合わせてしっかりと生徒、教職員に根付かせる。 ※オープンスクール週間に6年生登校を予定し、多くの方に見てもらい機会とする。 ※各校の学校運営協議会の連携も図りながら、地域連携活動をさらに充実させる。	【小中一貫教育】 ・小中連携が年々進み、とても良い。 ・中学校で示されている項目の努力点、それに向かっていけるよう小学校でも校長先生から子ども達に対して分かりやすく話されていた。 “出来ることは今から”という取組がなされ、中学校へ向かって進んでいこうとしている。この取組を家庭にも地域にも広めていきたい。 【地域連携】 ・地域の行事に中学生が参加してくれると、地域が活性化し、とてもありがたい。ただ、全員参加してくれると良いのだが、部活動や塾、家庭の都合等でなかなかそうもいかないようである。
	21	小中一貫教育は、組織的・系統的・計画的に推進されていると思いますか。	B	B		
	22	小中一貫教育（6年生登校、部会、全体会等）を通して、校区小学校の教職員や児童への理解が深まっていると思いますか。	A	A		
キャリア教育	23	「そうあん先生の教え」と「そうあんくんの日」の取組は組織的・系統的に推進されていると思いますか。	B	B		
	24	「自己教育力」を促す指導、自律性を高める指導が推進されていると思いますか。	B	B	○キャリア教育の4観点を学校行事の目標に掲げて実施し成果を上げている。 ○「そうあん先生の教え」の浸透を図り、自立に向け、基本的な生活習慣が身についている生徒、規範意識の高い生徒は育ってきている。 ○生徒会活動による「毎月の月間目標」の掲示版を生徒が主体的に作り、より生徒自身が意識する取組を行った。毎週1回の学年集会、毎月1回の全校集会等で、生徒自身が主体的に「当たりまえのこと」を実践しようとする呼びかけを行うことができる機会を多く持った。 ○学年ごとに職業調べ、高校調べ、進路学習等が計画的に行われ、生徒が発表する機会もあった。主体性を伸ばす良い機会となっている。 ○様々な教育活動がキャリア教育に結びついている。本校が推進している「地域連携活動」は、キャリア教育の重要な位置づけとなっている。 ○今年もコロナ禍であったが「トライやる・ウィーク」を地域の協力で3日間実施することができた。 ▲さらにキャリアノート・キャリアパスポートの充実、有効活用をしなければならない。 ▲外部人材（卒業生や地域人材）の活用で将来に目を向かせる試みが不足している。 ※学校教育全体をキャリア教育の一環として捉え、各教科、学活や総合の時間で進めていく。 ※生徒が主体的に活動したり、自分たちで考え、工夫して行動したりする力をつけるよう、学校教育全体の中で生徒が活動する場面を多くつくる。	【キャリア教育】 ・学年の発達、学年の系統性を踏まえた内容や実践が必要であるので難しいが、自己教育力、すなわち「生きる力」育成の観点から、早い段階から進路について考えさせる指導を行っているのが良いのではない。 ・「自己教育力」に課題があることから、「そうあんくんの日」をうまく活用して自主・自立へとつなげていけなかつと思う。 ・自分で問題を見つけ、それを解決できる力、いわゆる「生きる力」を育てることについて、少し低い評価にはやや問題がありそう気がする。自分で解決できる力こそが必要だと感じている。
	25	当たり前のことが当たり前前にできる生徒の育成が図られていると思いますか。	A	A		
	26	キャリア教育は生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容・実践になっていると思いますか。	B	B		
	27	生徒が主体的に進路選択・決定ができるような指導がなされていると思いますか。	B	B		

		主な評価項目・取組内容	各項評価 R3	達成 状況	学校の取組状況及び改善の方策等	学校関係者評価
特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育	28	インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られていると思いますか。	A		○校内の点字表示やエレベーターの活用等、施設や設備の整備ができている。 ○インクルーシブ教育に向けての校内研修を進めることができた。教室の環境整備や授業で使用するチョークの色などにも配慮している。	【特別支援教育】 ・配慮が必要な生徒を核とした学級づくりをするため、出来るだけ多くの教員が関わる支援体制を整えること、特別支援教育コーディネーターによる調整が必要である。
	29	校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われていると思いますか。	A		○特別支援コーディネーターを中心にして、個別の指導計画や教育支援計画、サポートファイルの共通理解を図ることができた。より使いやすいように改善を進めた。	【道徳教育・人権教育】
	30	生徒や保護者との合意形成のもと、小中・中高の「支援の引継ぎ」が組織的・継続的に行われていると思いますか。	A		○道徳はローテーション授業を取り入れ、担任だけでなく全教員が実施するなど成果があった。 ○本校に通級指導担当教員が配置され、他の職員との連携をより深めることができた。特別支援コーディネーターの調整により、充実した指導となっている。	・道徳は、自分事として考え、みんなで議論する授業などを通して、個々の道徳性を育む機会である。生徒は笑顔で人と接したり、大きな挨拶をしたりするなど、日常的に実践されていると思う。
	31	「豊かな心」の育成を図る教育活動が推進されていると思いますか。	A		○慎独タイム(朝読書)は定着し、落ち着いて1日をスタートすることができている。 ○兵庫県指定の気象再雅雄モデル校として、有名なお天気キャスターや防災教育専門の大学教授などを招いて、全校的に防災教育を推進した。	※普段の学校生活、家庭生活の中で人権感覚が培われるようお願いしたい。
	32	自他の生命を尊重する態度は育ちつつあると思いますか。	B	A	○新型コロナウイルス感染症については全職員の共通理解のもと、その対策に力を注ぐことができた。 ▲SNS使用における課題が多い。校区のSNSルールなどを示しながら指導を粘り強く進める必要がある。この課題の解消については、PTAと連携した取組を進める必要がある。	【健康・安全・防災教育】 ※生徒の通学マナーを徹底する必要がある。 ※新型コロナウイルス感染症対策として感染防止に向け、生徒一人一人が出来ることを徹底させるなど指導の徹底が必要がある。
	33	「教科書」をはじめ「兵庫版道徳教育副読本」が効果的に活用されていると思いますか。	B		▲特別な配慮が必要な生徒については、年度当初だけでなく、サポートファイルの見直しや小学校との連携を適宜速やかにし、目標に向けた取組ができる体制を整えたい。 ▲「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」をさらに有効に活用していく必要がある。	※学校保健委員会の開催(定例)が感染症拡大防止のため2年間紙面開催となったが、開催方法や時期を検討するなど定期的に開催できよう工夫していく必要がある。
	34	道徳の評価を行うにあたり、学年職員で協力して評価内容・方法の検討を行ったり、共通実践を行ったりしていますか。	A		▲「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」をさらに有効に活用していく必要がある。 ▲小学校から中学校へ、中学校から小学校へ、「支援の引継ぎ」の内容や方法、時期等について全職員が理解しておく必要がある。	【清掃・美化活動その他】 ・清掃指導の工夫が見られる。良く頑張っている。校舎がきれいである。
学級活動・生徒会・部活動	35	ネットいじめやDV、多文化共生、男女共生、性的マイノリティなどの人権課題をとりあげ、校内研修を行うなど、人権尊重の精神涵養に向けた取り組みが進められていると思いますか。	B		※通級指導で行われている内容についての教職員の関心をさらに高める。 ※外部人材を招いた人権に関する研修を行う。	・小さい時からの家庭生活も大切だと感じる。家族の助け合いや思いやりを大切にしながら生活し、学校でも美化活動に励んでほしい。
	36	防災教育や新型コロナウイルス感染症対策など、健康・安全に対する指導は、的確に行われていると思いますか。	A		※兵庫版道徳教育副読本を保護者や地域の方知ってもらう機会を増やすなど、道徳の指導内容への理解を深める。	
	37	生徒の自治性や主体性を引き出す生徒会活動が行われていると思いますか。	B		○生徒会が定めた月間目標の振り返りを、毎月の生活アンケートの項目に取り入れた。 ○生徒会活動には積極的に取り組む生徒が多い。専門部への所属意識が高く責任を持って自分の任務に取り組んでいる。 ○生徒自身で本校で取り組んでいる「語先後礼」をより良いものにしようとする姿勢が見られた。	【学級活動、生徒会活動】 ・学校行事などに生徒が中心になって取り組んでいる姿は、大変素晴らしい。達成感、満足感があり、良い思い出になる。 ・生徒の学習態度や行事への取組の様子を見ると、教員と生徒が一体となって頑張っている様子が伝わる。 ・生徒会も目標達成のために主体的に、みんなで力を合わせてよく頑張っている。教職員の意識もあり、充実した活動がなされている。
	38	専門委員会の活動は継続的・発展的に行われていると思いますか。	B		○学年の中で、前に出てくる積極的な生徒が増えてきたように思う。	※先生に言われたことなどはするが、自分で考えて行動することが出来にくい傾向にある。時間はかかるが、長い目で指導をお願いしたい。
	39	互いに高めあおうとする集団になりつつあると思いますか。	A	A	○いきいき運動部活動のもと、部活動を生徒たちの生活の柱に位置付けている。その趣旨を顧問も生徒も理解し、成果を上げている。	【部活動】 ・各部とも明るく、男女の仲が良い。教員と生徒の一体感がある。今年度は野球部など全体的に良い結果につながった。新型コロナウイルス感染症で制約もあり大変だが、生徒の生活の一部になっているので頑張ってもらいたい。
生徒指導	40	部活動を通して生涯学習・スポーツの基礎となる豊かな心やたくましい体が育っていると思いますか。	A		○学校行事には明るい表情で積極的に参加し、学級や学年への帰属意識を高めている。 ▲与えられた仕事は着実に実践するが、自ら考えて動く力はまだ物足りない面がある。 ▲専門部会において、生徒の主体性も見られるが、まだまだ教師主導のことが多い。 ※生徒会活動の一層の充実を図るため、日常生活の中で生徒が主体的に活動する場面をできるだけ多くつくる。	・たくさんの賞を受け、素晴らしい努力だと思う。賞がとれなくても、どの子も頑張っていることを忘れずに、明日に向かってほしい。根性や友情、他の活動への積極性も大切にして進めてほしい。
	41	一人一人が生かされる学級づくりができつつあると思いますか。	A		※学級は生徒にとって生活・学習の場であるだけでなく、「心の居場所」であるという意識のもと、「自尊感情」や「帰属意識」を高める取組を工夫する。	
	42	規範意識の育成に努めていると思いますか。	A		○小中一貫教育で5つの力点(あいさつ・返事をする・履き物を揃える。等)を示し、校区全体で粘り強く指導を継続している。そのため、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いている生徒が多い。 ○規範意識が高く、規則を守り、落ち着いた生活ができる生徒が大半である。	【生徒指導・不登校対応・教育相談】 ・中学生であれば、基本的な生活習慣が出来れば素晴らしいと思う。生徒の姿を見る限り、教師もその確立に向けてよく努力している。
	43	いじめの積極的認知や生徒指導に係る情報交換が行われ、安心・安全な学校づくりが進められていると思いますか。	A		○「チーム八鹿青溪」を意識し、職員間(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを含む)の情報交換は概ねよくできた。 ○いじめアンケート(毎月1回)やスマイルチェックなどは効果的に活用が図られている。 ○いじめの積極的認知が進み、生徒が安心・安全で過ごせる環境づくりは進んでいる。 ○生徒指導の3機能を事ある毎に意識しながら、生徒指導事業には組織的に対応できている。	・アンケートの結果からいじめられている生徒がいることがわかる。少ないからといって気を許すことなくいじめ対応に取り組んでいてもらいたい。
	44	ーチェックや生活アンケート、いじめアンケート等による実態把握や教育相談等を通して、生徒理解を深める工夫がされていると思いますか。	A		○生徒の意見を取り入れて改訂した「養父子こどもSNSルール」を指導にいかしている。 ▲情報通信機器を用いたトラブルが今年も発生している。生徒への粘り強い指導と家庭と連携した取組が必要である。	※立ち番や生活記録指導、生活アンケートなどを活用し、生徒の内面を理解する手立てを充実させる。
研修・資質向上	45	生徒指導の三機能(自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する)を意識した指導を行っていると思いますか。	B	A	▲様々なアンケートや調査については、しっかりと時間を確保して分析し、学級全体や各個人に対して具体的にアプローチをする必要がある。 ▲生徒の「聞く姿勢」の指導や下校後の教室環境整備など、統一した取組を行う必要がある。 ※生徒がより安心・安全に生活できる学校づくりを進めるために、生徒指導体制の一層の充実を図る。 ※SNS対策が喫緊の課題となっている。教員の研修と家庭への啓発活動を充実させる。 ※いじめの積極的認知については引き続き取り組む。 ※スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を深め、生徒支援のみならず、家庭支援の体制を強化する。	※課題としては、①いじめ問題への対応、②不登校生徒への対応、③教職員が生徒と向き合い、関われる時間の確保　が挙げられる。 ※いじめ、問題行動、不登校などの生徒指導課題に対して、全職員、保護者、地域が連携を強化し、未然防止や早期発見、早期対応に努力していく必要がある。 ※不登校の子ども達について課題が山積だが、養父子こどもサポート室への理解も進み、来室する教員も増えてきている。子ども達の心を考え、連携をとりながら支援できている。
	46	家庭と連携した指導がとれていると思いますか。	A			
	47	指導に対する教職員間の共通理解、「報連相」は十分にできていると思いますか。	A			
研修・資質向上	48	職員研修の推進方法・内容は現状でよいと思いますか。	B		○新学習指導要領実施に向けて、指導内容や評価についての研修を進めることができた。 ○専門家を招いて、タブレットなどのICT機器操作の研修を積極的に行った。双方向の授業や視覚的に訴える授業づくりが進んできた。	<職員研修・教職員の育成・資質の向上・その他について> ・職員研修は教員の資質向上のために必要なことである。大変だが意欲的に取り組んでほしい。
	49	兵庫県資質向上指標に基づきながら、「確かな学力」を育成できる教師として常に教材研究や修養に努めていると思いますか。	B	B	○非違行為や体罰事案など、事例に基づいた研修を取り入れ、実践的な研修となった。 ○道徳をはじめ、学校安全、特別支援教育、救急体制等の研修が予定どおり実施できた。 ▲「主体的・対話的な学び」に向け、教科横断的に研修を進め、授業改善を図る必要がある。	・生徒だけでなく、教職員も社会活動に積極的に参加し、自分を見つめ、自分の考えを広げていくことが必要である。 ・多忙化により教材研究の時間確保が難しいが、指導力向上のためには不可欠であるので努力を要する。
	50	指導力向上、学力向上に向け、授業参観や助言を行うなど、互いの力量を高める努力を行っていると思いますか。	A		▲全教員が研究授業、授業公開を実施する予定であったが、全員はできなかった。 ※学校の課題、必要性を明らかにし、それに応じた研修を行う。 ※学校安全について、全教職員で共通認識をもって取り組んでいく。	・半数を超える教員が教材研究の時間確保が難しく、仕事と生活の両立も難しいと感じている。大変だが工夫・改善に取り組んでほしい。